沈雨晟先生と私ーおっかけの記ー　飛田雄一

（『むくげ通信』295 号、2019.7.31）

沈雨晟先生が亡くなられた。本当に残念だ。神戸学生青年センターでも何回か公演をしていただいた。先生のファンになった私は、その後、先生の「おっかけ」をした。以下、その「記録」を書いて、先生のご冥福を祈りたいと思う。

センターでの最初の公演は、1981.11.10、「ソウルアンサンブル」だ。人形劇で題目は、「洪同知ホンドンジの外出」と「農舞」。『むくげ通信』69 号、1981.11 に八巻貞枝さんが感想文を書いている。（『通信』234 号、2009.5.31 飛田「沈雨晟さんと神戸」を読み返して思い出しながら以下記述する。）

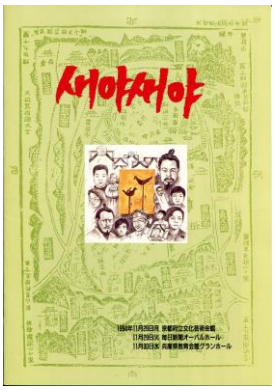
そして 1983 年。この年は関連する 3 回の公演があった。2.19、「沈雨晟人形劇場―双頭児」と 4.2「金明洙・金一玉韓国伝統舞踊」だ。お二人は沈雨晟先生のお弟子さんだ。「双頭児」は、南北分断をテーマとしながらコミカルかつユーモラスなものだった。沈先生は公演冊子に、「一つの胴体に頭が二つ、手が四本。だが、足は二本だけ。二つの頭は、おのおの別のことを考えてはいるものの、おのおのが片足ずつを思うままに動かして、片足とびをするわけにもいかない。／所詮一つでなければ生きていけない双頭児の生態と確認する作業は、われわれにとって、けっして他人事ではない。／自らを治療するために不可欠の課題なのだ」と書かれている。2.20 大阪・聖和社会館、2.21 京都大学学友会館でも公演が行われた。

「伝統舞踊」は、当時観光ビザで来日した女性がバーなどで働くことが問題となっていた時代であり、ビザ取得に手間取った。大阪空港でも民族楽器をもったふたりは別室に連れていかれた。呼び出しをうけた私が釈明をしてようやく入国できたのだった。伝統舞踊の公演は、広島、大阪、名古屋でも行われ、私も同行した。ショー的な舞踊ではなく、こういうのが伝統舞踊なのかと思った。鹿嶋節子さんが『通信』78 号、1983.5.29 に「ふたつの公演をみて」を書いている。

3 回目は、沈先生の朝鮮史セミナーで、 9.29、ビデオ「コクトゥガクシノルム」を観たのち、「韓国の伝統人形劇」」をテーマに講演してくださった。

1985 年にも 2 回来られている。8.16 に沈先生が代表をつとめる創作人形劇集団「ソナンダン」の公演。「北に行けば白頭山、南に行けば漢拏山」「北に行けば豆満江、南に行けば洛東江」の歌に、私もウルルとなったことを覚えている。

そして 9.7 には、神戸市立博物館で「ムーダン公演」をされた。沈先生がムーダンになったのではなく、女性ムーダンとともに来日されたのである。博物館ホールで沈先生といっしょに結構大掛かりな飾り付けをした。博物館の副館長と私が知り合いで実現した公演だった。



1994 年は東学農民革命の「音楽舞劇・セヤセヤ（鳥よ鳥よ）」が 11.28 京都府立文化芸術会館、11.29 大阪・毎日新聞オーバルホール、11.30 兵庫県教育会館グランホールであった。公演冊子には、「音楽舞劇「セヤ セヤ」は、東学農民革命 100 周年を迎え、100 年前封建体制の過酷な収奪と外勢（列強）の侵略に対抗したこの国の農民たちの怨と恨、そして彼らの平等と変革の意思を称えた作品である」とある。冊子には金時鐘さんが「百年の芽吹き―音楽舞劇「セヤ セヤ」に寄せて―」を寄稿してくださっている。

1997 年、今度は韓国でもお目にかかった。学生センターの「祭ツアー」第 2 弾で、公州百済文化祭訪問のときに公州に完成したばかりの沈先生の民族劇博物館を訪問したのだ。

2010 年、先生が済州島に移られたあと、そこでもお目にかかっている。むくげの会の「新春合宿 in 済州島」のときにお宅を訪ねたのである。

2009 年、6.10 東京で人形劇団「プーク」80 周年記念公演に沈雨晟先生が招かれたときにも、私を含めたむくげの会から何人かが出かけた。演目は、「アリランアリランアラリヨー４・３の峠を越えていく」。東京の北原道子さんの呼びかけで公演前日に 8 名で先生抜きの「前夜祭」をした。大変盛り上がったことを思い出す。

かくも濃厚な沈先生と私たちであるが、そのきっかはなにか？　関西での先生のイベントをいっしょに進めたのは金徳煥さんと梁民基さん。金さんに以前尋ねたら、飛田さん経由ではないかという。すると梁民基さん経由か？　今となっては分からない。もはや沈雨晟先生にお尋ねすることもできないが、もうどうでもいい気がする。以上、おっかけの記を閉じる。もうおっかけないようにします。いずれ再会できるので・・・。